「サンゴの産卵」住民と共有

断言はできないが、世界でここだけではないか、と町の担当者と言葉を交わしたプロジェクトがある。

徳島県の最南端、海陽町の竹ケ島。小さな島で、四国本島とは橋でつながっている。エダミドリイシなどサンゴの群集が見られる周辺海域があり、環境省の海域公園に指定されている。町は船底展望室を備えた海中観光船を運航し、観光客誘致を図ってきた。

冒頭の世界唯一の可能性を秘めたプロジェクトとは、海中観光船からサンゴの産卵シーンを観察する企画だ。

サンゴは夜に卵を産む。浅瀬のサンゴ群生地で夜に観光船を運航するのは安全面で難しいとされるが、竹ケ島は波の影響を受けにくい海域のため実現できた。２０１９年にモニターツアー的に県内限定で告知し、初開催した。

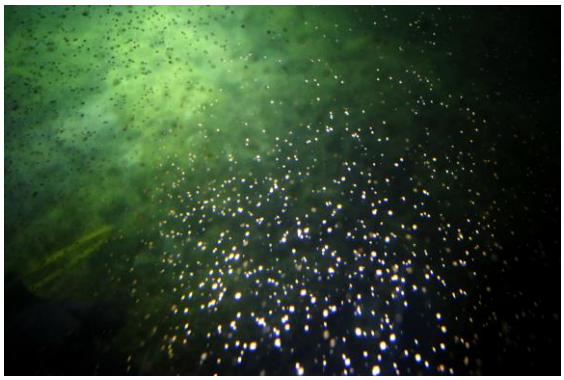
実現できたのは、サンゴの保全に取り組む竹ケ島海域公園自然再生協議会による産卵データの蓄積も大きかった。調査の結果、旧暦の７月１日前後の午前８時半ごろに産む確率が高いと分かった。実際、１９年は８月１日、今年は８月１９日がその日に当たり、両年とも産卵が観察された。

今年は本来なら本格展開をする予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止に。町は地元住民に体験してもらう機会に振り替えた。「私たちも見たことがない」との声があったからだ。

８月１７～１９日の午後７時半～９時に開き、親子連れら計５７人が参加。船からライトを当て、しばらく待つと、直径約１㍉のオレンジ色の卵がふわりと海中を漂い始め、時間の経過とともに、無数の卵が星空のような光景を演出した。肉眼で自然の営みを見る貴重な機会として住民からは好評を得たという。

コロナで観光の苦戦が強いられる中、海陽町は宝の存在を、地元に知ってもらう時間に充てた。町商工観光課は「ダイビングしなくても気軽に見えるサンゴの産卵という新たな魅力の発信や商品化に努め、観光振興につなげたい」としている。

徳島新聞社　編集委員室長　門田誠



底展望室から観察できたエダミドリイシの産卵
＝８月１８日、徳島県海陽町

周辺の海域にサンゴの群生地がある竹ケ島
＝徳島県海陽町